



のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C！

令和8年6月30日
横浜市立保土ヶ谷小学校
学校長 宮生 和郎

子どもたちの思いが形に

副校長 畑島 久美子

新年度が始まり、三か月が過ぎました。子どもたちは新しい教室や仲間、先生との生活にも少しずつ慣れ、日々の学習やスポーツ祭などの行事を通して、互いを理解し合いながら関係を深めています。環境の変化に戸惑いながらも、一步ずつ着実に前へ進んでいる様子が感じられます。

一年生の保護者の皆様におかれましては、お子様が元気に過ごしているか、友だちと仲良くしているかなど、ご心配も多かったことと存じます。しかし、子どもたちはそれぞれのペースで確実に成長しています。まもなく七月を迎え、いよいよ夏本番となります。

さて、本校では令和元年度までPTA主催の「ほどっ子まつり」が行われ、その収益の一部は卒業記念品や特別クラブへの支援など、児童のために活用されてきました。コロナ禍や社会の変化によりお祭りは実施されなくなりましたが、収益金が残されていたため、その活用についてPTA代表の皆様と検討を重ねてまいりました。

その結果、昨年度の懇談会でお知らせしたとおり、当時の五年生（現六年生）に使い道を考えてもらうこととしました。どのような発想が生まれるのか楽しみにしていたところ、子どもたちは、日頃一年生が給食の準備に苦勞している様子に目を向けてくれました。一年生のことを思いやる気持ちから考えてくれたことを、大変うれしく思います。

当初は給食を運ぶワゴンの提案がありましたが、保管場所や人手の確保などの面から実現は難しい状況でした。そこで子どもたちはさらに考えを深め、一年生にとって使いやすい配膳台を提案してくれました。この案は実現可能であったため手配を進め、先日新しい配膳台が届きました。従来のもものより広く使いやすいため、一年生も安心して準備に取り組んでいます。子どもたちの思いが具体的な形となり、学校生活の改善につながったことをとても頼もしく感じています。

社会の変化が激しいこれからの時代、子どもたちが大人になる頃には、今とは大きく異なる社会になっていることでしょう。だからこそ、自ら課題に向き合い、他者と協働して解決していく力や、状況に応じて折り合いをつける力、そして相手を思いやる心を育むことが重要です。今回の取組は、そうした力を育む貴重な学びの機会となりました。

今後も、子どもたちが主体となる学びを大切にしながら、これらの力の育成に努めてまいります。

最後に、「ほどっ子まつり」の収益金につきましては、今後も児童への還元を目的として順次活用していく予定です。理科で活用する柑橘類やクワの樹の植栽、図書館の蔵書の充実などを計画しております。これまでの取組にご尽力いただいた保護者の皆様により感謝申し上げますとともに、大切に活用してまいります。



新しい配膳台